

「子宮頸部円錐切除術における断端陽性例の転帰（当院症例の検討）」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、市立吹田市民病院臨床研究審査委員会の承認を得て、病院長許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

1. 研究の対象となる方

2015年1月から2022年12月までの期間に地方独立行政法人市立吹田市民病院で実施した子宮頸部円錐切除術の方を対象とします。

2. 研究の目的

近年、子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）の若年者の増加に加え、晩婚化に伴う高齢出産の増加傾向により、子宮を温存する治療が求められる機会が増加しています。それに伴い、CIN症例にたいする子宮頸部円錐切除術の実施割合も上昇しています。しかしながら、円錐切除術後に切除断端にCIN病変の残存が認められる「断端陽性」症例は一定の頻度で発生し、その再発率は断端陰性例と比較して高いことが知られています。本研究では、当院において円錐切除術後に断端陽性となった症例の転帰について検討します。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年6月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2025年11月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に可能な限り対応いたします。

5. 研究に用いる試料・情報の内容とその取得方法

診療録（カルテ番号、病理検体番号）に基づき、手術時の患者さんの年齢、経産歴、術前及び術後の病理診断、術後の断端陽性率、断端陽性例に対する追加治療の有無などを抽出し、分析を行います。治療や検査を追加することはありません。

この研究で得られた患者さんの情報は、研究責任者である沈嬌が、個人が特定できないよう加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

6. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

市立吹田市民病院 産婦人科 沈 嬌（研究代表者）

7. 試料・情報の管理責任者

市立吹田市民病院 病院長 内藤 雅文

8. お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

○研究課題名：子宮頸部円錐切除術における断端陽性例の転帰（当院症例の検討）

○研究責任（代表）者：市立吹田市民病院 産婦人科 沈 嬌

○お問い合わせ先：

住所：〒000-0000 大阪府吹田市岸部新町 5-7

電話：06-6387-3311（代表）（土日祝日を除く 9：00～17：00）